

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600908		
法人名	株式会社 オフィス21		
事業所名	グループホーム はなえみ(ユニット大空)		
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平屋建ての広々とした建物で、2ユニットを運営しており、各ユニットは玄関横の渡り廊下で繋がっています。付近には、中学校のほか、食品スーパー、ドラッグストアなどがあり、利用者の方達が買物に出かけたり、中学生の体験学習を受入れたりと交流も盛んです。運営推進会議は2ヶ月に一度行っており、町内会の方に避難訓練に参加、協力をいただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600908&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの窓から中学校のグラウンドが見え、夏は体育授業の風景や体育祭の練習、冬はスケートの練習を眺め楽しんでいます。又中学校のイベントに利用者と一緒に参加しています。年4回学校の生徒が来て頂き、一緒に料理を作り、ゲーム等で楽しく過ごしています。又スーパーやドラッグストアもあり、利用者と職員は散歩をしながら、買い物に行くことも有ります。当ホームの敷地内には、法人の地域支援生活事業所等が隣接しています。近隣に公園、消防署出張所、病院等があり、閑静な住宅の中でもあり、環境に恵まれています。居間は広くゆったりと寛げるようになっていいます。加湿器を設置し、温湿度調整に気をつけています。利用者も居室にいるより居間にいる時間が多く、それぞれの場所で過ごしています。施設長と職員は、利用者を第一とし、家族の絆も大事に考え、利用者の尊厳を大切に、日々穏やかに暮らせるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この施設が地域に根付くように意識し、地域の方々との関わりを少しずつ増やしながらその方らしくを大切にしたい理念になっており、事務所など職員が常に目に付くような場所にはり、再確認してもらおう。	法人の理念と共にホーム理念を掲げています。ホーム理念のもと、施設長と職員は理念を共有し、日々の業務の中で実践に繋げるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、町内会や地域の情報を教えてもらいながら、参加できる事は、参加させてもらっている。	年4回の中学校の体験学習を受け入れたり、利用者がイベント見学に行きます。運営推進会議を通して、地域の情報を教えて頂いたり、毎月発行の「はなえみだより」を届けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとは、どんな方が利用している施設なのかを書いてあるパンフレットを作成し、町内会には回覧していただき近所の方には配ったりしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の代表の方、地域包括支援センターの方、ご家族代表の方は、常に会議に参加してくれています。議題によって、学校の先生などが加わっており、施設の状況を伝え、意見をいただいた場合はすぐに対応している。	定期的に2ヵ月に1度の開催となっています。ホームの取り組みや防災訓練、外部評価等を話しあっています。運営推進会議の参加者から、民生委員の方を紹介して頂いています。	構成メンバーが、2ユニット合同としては人数が少ないようです。運営推進会議の新たな構成員の呼びかけには、柔軟性を持って呼びかけ、ホームの理解と協力を頂けるよう取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度的な事や利用者の事で相談する事があります。	高齢者福祉課と連携を図り、高齢者虐待について家庭訪問を行ったり、相談を受けたりしています。ホームの実情を相談しながら、協力関係を築くように取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その内容の研修に参加し、身体拘束になっていないか再確認し、研修で学んだ事を勉強会として職員全員に知識を広め個々の再確認に生かしている。玄関の施錠については、利用者の状況により話し合いし柔軟に取り組んでいる。	身体拘束の研修会に参加し、全職員で理解しています。玄関施錠は、帰宅願望が強い為に家族に説明し、24時間施錠をしていましたが、利用者の状態を見ながら、開錠する時間を作っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	その内容の研修に参加し、研修で学んだ事を勉強会として職員全員に知識を広め、個々の介護が虐待とないかを再確認している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談事例は無いが、施設長と主任は、様々な相談に関わるため、個人的に学び知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明、契約の際は、ご家族の希望を伺い、説明後納得いただいてからサインをいただくように時間をかけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申立箱を作り、玄関に置いている。面会時など、ご意見を聞く機会を作り、ご家族に協力いただきながら、運営に反映させている。	家族からは、ホーム訪問時に出来る限り聞くようにしています。日中の活動として、家族から手芸等の提案があり、好きな利用者は、意欲的に取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月の職員会議などにて意見を交換し、反映させている。	月1回の職員会議に運営者も参加し、職員の意見や提案を聞いています。利用者のケアは、変化があれば日常業務が変わっていくので、職員の意見は直ぐに取り組むようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、常に職員の動向などを代表者に報告し、職員個々の能力や職場感環境について話合える状況を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JITチェックを導入し、職員が気づく場面を作り、面談しながら職員が求めている事を把握し、その後の研修を受ける参考にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会の会場での意見交換をし、今後につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、本人の状況を確認し、本人の求めている事などを把握するように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、主任が相談から入居までを一貫してかかわり、早期に信頼関係を築くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援に付いて助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当制を儲け、職員と信頼関係を築き何でも話し合える関係を作るように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を常に報告し、面会に来ていただき、生活を支えてくれている。介護計画の中でご家族にも協力してもらいたい件を記載し、協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのコミュニケーションや、遊びに来ていただけるように努めている。	かかりつけ医での知人との語り合い、馴染みの美容室や訪問理美容、又職員と一緒に知人の葬儀出席、クラス会に参加しています。選挙にも職員と一緒に投票に行く等支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の中で、皆が集まれるよう誘導したり、色々な話ができるように話題を提供したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要としている方にはいつでも、相談できる体制をとっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は生活歴や本人の発する言葉などから、日々検討し模索している。困難な場合は、様々な場面を作り笑顔や意欲をとおして、把握できるように努めている。	担当制を設け、日常の関わりから、利用者の生活歴やコミュニケーションの中から、希望や意向の把握に努めています。表出困難な利用者は、表情、仕草、動作、家族の希望から、利用者本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から経過を聞き、利用されていたサービス機関等の情報より把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、申し送りし、職員全員が把握できるようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の視点で課題を分析し、様々な角度から話し合いを行っている。家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。	毎月カンファレンスを開き、職員で話し合いモニタリングをし、家族や利用者の意向をふまえて介護計画を立てています。身体状況に変化があれば見直しを行い、現状に即した介護計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人の記録の記入とミーティングを持ち、情報の共有を行っている。介護計画の見直しや評価にいかしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在事業所で出来る多機能性については限りがあるが、今後、必要であれば考えたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の避難訓練の実施、近隣の教育機関からの研修やボランティアの導入、地域の文化活動に参加したりしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時に日常の様子や病状の変化などを手紙に書き、受診時に渡してもらったり、提携している医療機関の医師とは、24時間連絡体制をとっており、いつでも相談できる。	定期受診は家族が対応しています。家族の都合で職員の対応もあります。受診日に日常生活記録を医師に提出し、医師からも返信がきています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している医療機関の看護職員と気軽に相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に同伴し、病院関係者と情報交換を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができる十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化によって必要に応じ何度も話し合いを行っていき、終末期のケアを実践できるかを検討している。	利用者の状況により、家族と必要に応じて話し合いを重ね、終末期のケアを実践できるかを検討しています。	ホームの方針や指針を作り、重度化や終末期の意向を、早い段階から利用者、家族と話し合い、方針を共有し、話し合いは記録に残し、医療関係者と共に支援体制に取り組むよう期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その内容の研修会に参加し、その後勉強会を開き、全職員に知識を広めている。緊急時の対応マニュアルを常に目に付くところに置いておき、確認できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方にも参加していただき、年2回避難訓練の実施、その内容の研修会に参加し、勉強会を開き全職員に知識をひろめる。	年2回の避難訓練をしています。運営推進会議で呼びかけ、家族や地域住民が参加され、玄関外で安全確認と見守りをお願いしています。毎日施錠と通路確認、火器点検をともに行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を保つような言葉遣いをしており、身の回りの援助をするときは同意を得てから行っている。	トイレ誘導時の声かけは、利用者の側で行い、プライバシーを損ねない声かけを行っています。支援を行う時は、声かけをして行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、意識的にゆったりとした雰囲気、身のこなし、視線、言葉使いを心がけ、利用者が自分の思いや気持ちを伝えやすくしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を出来るだけ優先している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、整髪に気を配り、身だしなみに気をつけている。美容室は、家族や本人の希望する店に行くか、出張サービスも利用している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、メニューによっては個別の好みに配慮した食事をしている。準備や片付けも利用者の力に合わせて職員と行うようにしている。	利用者の好みを把握し献立を作り、メニューによって別メニューを取り入れたり、刻み食や、お粥、とろみ食等、状態に合わせて支援しています。買い物、準備、片づけなど一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使い、1日の食事や水分の量が分かるようにしている。水分の取れにくい方には、ゼリー状にするなど工夫している。必要な方は、計量し、摂取量を把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	忘れがちな方には、声かけし促している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人一人の排泄パターンを把握し、適時の誘導にてトイレで気持ちよく排泄してもらう。	排泄は、パターンを把握し個々に対応しています。トレパンから布パンに換えてから、生活に意欲が出るようになってきています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューにしたり、おやつ（寒天など）の工夫をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は現在の所対応できていないが、利用者の就寝時間が早く、生活のスタイルに合わせて希望の時間に入浴できるように努めている。	毎日、入浴は出来るようになってきています。午前中に入浴する利用者もいて、入浴剤を入れ、ゆっくり入浴を楽しんでいます。利用者と職員が色々と話し合える場となっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の巡回時は安眠の妨害にならないように配慮する。昼寝の時間は、その時の体調も考慮しながらも、昼夜逆転してしまわないように適度な時間で声かけを行い、昼間活動ができるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況をファイルし、いつでも確認できるようにしている。受診時に変更があった場合は、記録に記載し、申し送りを行い、全職員が把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し日常生活の中に取り入れて、張り合いのある生活ができるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物の要望があった場合は速やかに対応している。その方のお誕生日には、希望をお聞きし、行きたい所があれば実現できるように、ご家族にも協力していただいている。	買い物や散歩、野菜畑、花畑等には直ぐ対応しています。利用者の誕生日には、家族と協力し職員と温泉に出かけ、入浴後家族と食事をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持したい希望の方は、ご家族の了解の上可能としているが、原則は事業所で預り、使いたい時に対応できる状況にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、速やかに対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く利用していただくために、清潔を保つようにしている。	共有スペースは広くゆったりしています。廊下の壁には、行事写真が飾られ、フロアに観葉植物が置いてあります。利用者は、食後、テレビを見る方、手芸をする方、話をしてる方等、それぞれの場所で寛いでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、居心地の良い場所を作れるように、テーブルやソファの位置を工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていて、慣れたものをそのまま使っていただけるように促し、安心して落ち着いた暮らしが出来るように配慮している。	洗面所、クローゼットが設置され、仏壇やテーブル、ダンス、椅子、テレビ等、使い慣れた物を置き、家族の写真や小物を飾り、加湿器を置く等、居心地良く過ごせるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置や車椅子でもゆったり移動できる空間など自立した生活が出来るように工夫している。			